



市長サミットは、市内のホテルで開催され、多くの市民らに参加子どもたちにも、佐藤一斎の教えを分かってもらおうと作られた『おじいちゃんとおぼく』を手に、一斎の『言志四録』の言葉などを紹介する可知市長



NPO法人いむら一斎塾が発行した『おじいちゃんとおぼく』



嚶鳴フォーラムin恵那 市長サミット

「学ぶことは幸せなり」 先人の知恵を生かし、生涯学び続ける ことが豊かな人生をつくる

郷土の先人の教えを学び、まちづくりや、人づくりなどに生かす取り組みをしている、全国14の自治体が一堂に会し、意見交換や討論などを行う嚶鳴フォーラムが、10月23日と24日の2日間、市内で開催されました。ことしは、『言志四録』を記し、「三学戒」などで知られる岩村藩出身の儒学者佐藤一斎の没後150年祭として、行われました。

問い合わせ 文化課 43 2112

嚶鳴フォーラムは、江戸時代の教育者細井平洲の教えを原点に、まちづくりを進める愛知県東海市の呼び掛けにより、2007年から開催され、今回で3回目となります。

初日は、市内のホテルで「市長サミット」が行われ、可知義明市長や東海市の鈴木淳雄市長ら、9市の代表者が出席し、先人の教えを生かすまちづくりについて、意見交換をしました。

今回は、「未来を担う子どもたちのために、今、なすべきことは」をテーマに、各自治体の取り組みの発表のあと、討論が行われました。

会場では、「ふるさとの先人について、子どものころから、学校などで学ぶことが大切」という発言や、「世代を超えて、先人の教えを共有していくことが重要」、「先人の教えは幸せな生き方を教えてくれる」など活発に意見が交わされました。

可知市長は、佐藤一斎の『言志四録』などの教えを、生涯学習の基本として、まちづくりを進めたい。学んだことを生かしていくことが、自分の幸せにつながり、地域の幸せにつながるなど発言し、子どもから高齢者まで、誰もが、いつでも学べるまちづくりの重要性を訴え掛けました。

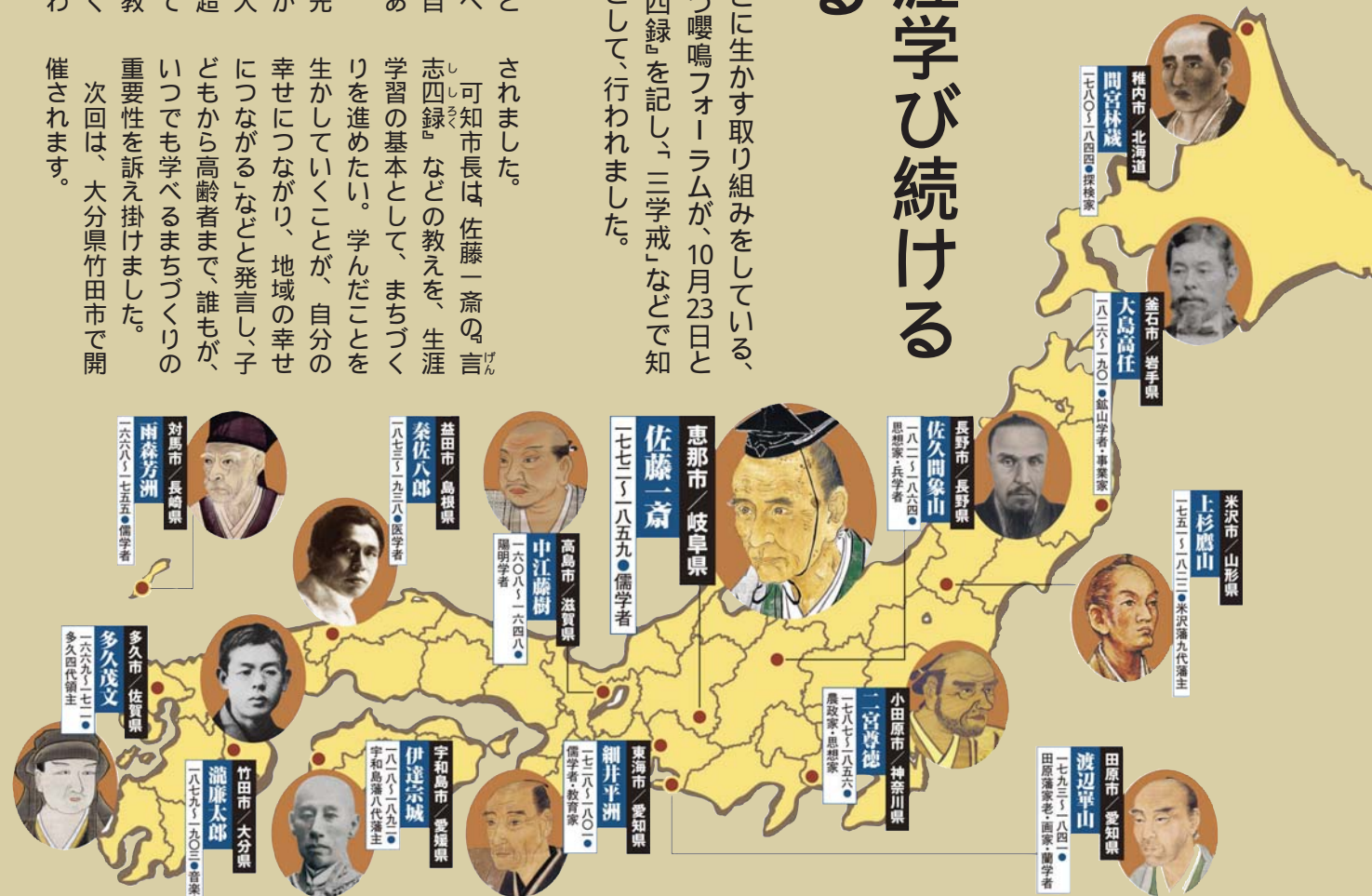
今回は、大分県竹田市で開催されます。



コメンテーターを務めたPHP総合研究所主任研究員の亀田徹さん
左から岩手県釜石市・野田市長、大分県竹田市・首藤市長、滋賀県高島市・高橋教育長
左から愛知県原市・眞木教育部長、島根県益田市・福原市長、佐賀県多久市・横尾市長、神奈川県小田原市・加藤市長



嚶鳴フォーラムは愛知県東海市の鈴木市長の呼び掛けにより始まった
市長サミットでコメンテーターとして参加した東洋大学文学部・吉田公平教授



嚶鳴フォーラムに賛同している全国14の自治体と、各地ゆかりの先人たち

言志四録 = 佐藤一斎が書いた語録。内容は学問や思想、人生観などで、指導者のためのバイブルと呼ばれている。三学戒の「少(わか)くして学べば仕(つか)に仕(つか)て為(な)す有り、仕(つか)に仕(つか)て学べば老(おい)いて衰(おとろ)えず、老(おい)いて学べば死(し)して朽(く)ちず。」は、その中の一節



脳のパワーについて話す茂木さん



会場は約1,000人の聴衆で満席となった

記念講演会 茂木健一朗さん

苦勞して、壁を乗り越えたとき、 脳のパワーは伸びている

午後には、恵那文化センターで脳科学者の茂木健一朗さんの講演会と、作家童門冬二さんと、NHK大河ドラマ「篤姫」の脚本家として知られる田淵久美子さん、佐藤一斎顕彰会の鈴木隆一会長によるトークイベントを開催。会場は、約千人の聴衆で満席となりました。

茂木さんは、「脳が喜ぶ、子どもで自分だけで」と題し、講演。時折ユーモラスな話題も交えながら、「苦勞をして壁を乗り越えたとき、脳は楽しいと感じる。脳が楽しいときは、学習能力が向上している。常に目標を持ち、苦勞して目標を達成していくことで、脳のパワーは伸びていきます」と語り、聴衆に努力していくことの大切さを説きました。

講演会後のトークイベントでは、鈴木さんが佐藤一斎の『言志四録』などを紹介し、「学ぶことは幸せなり」をテーマに進められました。

田淵さんは「子どもは親の背中を見て学び、親も子どもから学ぶことがある。仕事をしながらも学ぶことがある。人間は、学びたいと思うのが自然の感覚」と話しました。

また童門さんは「自分以外の人は、必ず学ぶことがある。常に学ぼうとする姿勢が大切で、先人の教えを生かしていくことも私たちの使命。学んだことを人や地域に生かすことが、生涯学習につながる」と話し、学んだことを生かしていくことが、幸せにもつながり、そのことが生涯学習には大切だと呼び掛けました。



佐藤一斎像の前で、あいさつをする佐藤一斎顕彰会の鈴木隆一会長



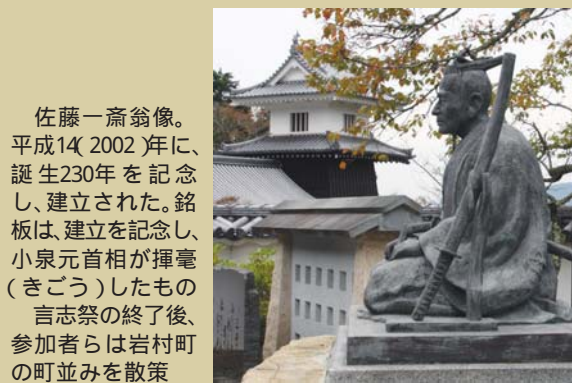
言志祭

『言志四録』の言葉を心に 佐藤一斎をしよぶ

24日の午前中、佐藤一斎顕彰会が、嚶鳴フォーラムに合わせ、佐藤一斎をしよぶ言志祭を行いました。岩村歴史資料館にある佐藤一斎翁像の前で行われた、言志祭には、関係者ら約400人が出席しました。

ことしは、一斎の銅像に銘板を揮毫した小泉純一郎元首相も参列しました。

小泉元首相は、一斎像に献花後、「苦しい時代を生き抜いた先人たちは、生きていく時代こそ違うけれど、書物を通じて出会い、その教えを学ぶことができる。一斎の教えを授業などに取り入れ、先人から多くのことを学び、地域づくりに役立ててほしい」と話しました。



佐藤一斎翁像。平成14(2002)年に、誕生230年を記念し、建立された。銘板は、建立を記念し、小泉元首相が揮毫(きごう)したもの。言志祭の終了後、参加者らは岩村町の町並みを散策



佐藤一斎の言志四録にある「三学戒」の言葉を取り上げ、「老いて学べば死して朽ちず - この言葉が今は好きだ」と話し、佐藤一斎の言葉について、思いを話す小泉元首相

参加者らは、岩村歴史資料館へも足を運び、佐藤一斎ゆかりの品々を見学



トークイベント

学んだことを、生かしていく これが、幸せにつながる

パネリストの皆さん。左から佐藤一斎顕彰会会長の鈴木隆一さん、作家の童門冬二さん、脚本家の田淵久美子さん